

研究計画
田中勝也(環境総合研究センター)

1. 研究テーマ:

米国の湖沼・流域管理における知識情報データベースの整備と途上国への適用

多様かつ複雑な様相をもつ湖沼・流域の管理には、湖沼・流域政策、環境行政組織・制度や社会的枠組み、住民参加の形態や方法、技術的対策の可能性や限界など、湖沼・流域を多面的な視点から理解することが必要である。そのため湖沼・流域管理の実践に際しては幅広い分野にわたる知識情報のデータベースを構築しておくことが必要不可欠の要素といえる。

そこで本研究は、湖沼・流域管理において先進的な米国を対象に、これまでに実施されてきた活動、特に湖沼・流域管理におけるガバナンスについての知識情報データベースを構築する。その過程で数多くの事例を整理・検証することで、他国・地域の湖沼・流域管理にも有用な要素の抽出が期待される。この知識情報データベースの構築では、(A)国・地方政府における長期的な組織・体制の整備、セクター機関同士の連携、(B)市民参加、湖沼環境問題に対する住民運動、NGO・CBOの役割、(C)湖沼・流域動態モデルの開発を通じた大学・研究機関の貢献、を特に重要な整理項目と位置付ける。また本研究では米国の湖沼・流域動態解明に多くの実績をもつモデル(EPA-BASINS、SWAT、HSPFなど)に関する情報を収集・整理し、それらモデルの利点および広範に普及した理由を明らかにする。同時に上記モデルを米国以外の湖沼・流域に適用する可能性について検討し、ケーススタディとしてラグナ湖(フィリピン)などアジアの代表的な湖沼・流域への応用を試みる。

2. 活動予定・予算

◇ 米国出張(7月27日～8月3日)

- 米国農業経済学会(AAEA)年次大会(フロリダ州オーランド)に参加し、湖沼・流域モデル開発・応用に関連する研究の情報を収集
- オレゴン州コーバリスにおいてオレゴン州立大学、環境保護局(EPA)、米国地質調査所(USGS)の湖沼・流域モデル研究者・モデル開発者に会い情報の収集、意見の交換をおこなう。またオレゴン州クラマス流域における湖沼・流域管理の取り組みについて情報を収集する。
- 費用:40万円(概算)

◇ 米国・メキシコ出張(11月?)

- TBA
- 費用:40万円(概算)

◇ 中国出張

- 本研究で適用予定であるSWATモデルの年次ミーティング(10月16日～18日、北京師範大学)に出席し、最新の同行を調査し関連研究を収集する。また中国精華大学のSWAT開発メンバーとの共同研究の打合せもおこなう
- 費用:15万円(概算)

合計:95万円